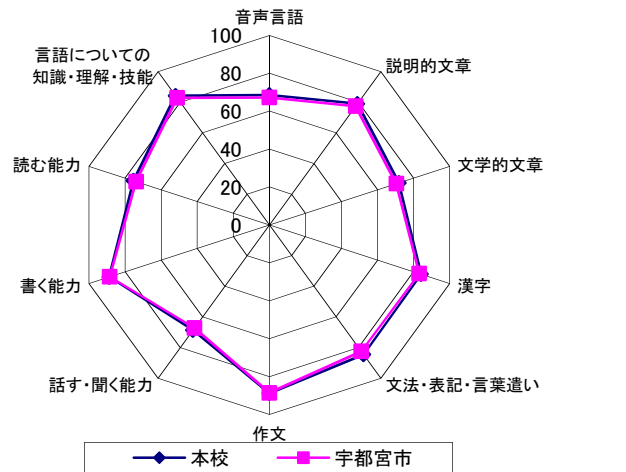


宇都宮市立国本中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	68.6	67.2
	説明的文章	79.0	77.5
	文学的文章	71.9	70.4
	漢字	84.2	83.1
	文法・表記・言葉遣い	84.5	82.5
	作文	88.9	88.6
観点別	話す・聞く能力	68.6	67.2
	書く能力	88.9	88.6
	読む能力	75.4	73.9
	言語についての知識・理解・技能	84.3	82.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (68.6%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると、1.4パーセント高い。市の平均と比べ、一番高い問題は、インタビューの工夫の聞き取りであり、一番低い問題は、事実と意見の聞き分けであった。	・聞き取りテストを今後も継続させていく。また、話を聞く態度を育てていくことも重要であると考え。生徒の発表や、教師の話を聞かるときにメモの取り方も指導していく。
説明的文章 (79.0%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると、1.5パーセント高い。全領域で市の平均を上回っていた。	・この領域を読む際には、接続詞や指示語に注目して読むことを指導している。本文に線を引いたり書き込みをしたりすることで、文と文の関係や段落のつながりを理解させていく。 また、説明的文章の要旨をまとめることを苦手としている生徒も多いため、キーワードを拾い適切にまとめていく力を養いたい。
文学的文章 (71.9%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると1.5パーセント高い。全領域とも、市の平均を上回っていた。	・長文の読解に時間をかけての指導は、生徒の意欲や集中力を欠く場合もある。おおよそのあらすじは読める生徒がほとんどであるため、その物語のおもしろさや、場面の転換、心情の変化と情景描写との関係など、読みの深まりを感じられるように指導していく。
漢字 (84.2%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると、1.1パーセント高い。市の平均と比べると、文章の主題についての正答率が低かった。	・漢字は練習プリントや小テストを行ったので、今後も継続させていく。書き取り、読み取りの難しいものや、間違えやすいものは、全体や個別で丁寧に指導していく。
文法・表記・言葉遣い (84.5%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると、2パーセント高い。市の平均と比べ、一番高い問題は、歴史的仮名遣いであり、一番低い問題は、動詞・形容詞・形容動詞についての問題だった。	・文法は問題演習を増やし、単元テストも行った。今後も継続させ、内容の定着を図っていく。
作文 (88.9%)	・平均正答率は、市の平均と比較すると、0.3パーセント高い。領域で見ると、重要語句の活用についての問題が市の平均を下回っていた。	・作文については、短作文の機会を増やし、書くことへの抵抗感をなくしていきたい。また、作文用紙の正しい使い方が分からないことから、書くことを苦手と感じる生徒もいるようだ。 作文指導の際には、原稿用紙に使い方を復習しながら、指導にあたっていく。